

- 問1 鎌倉時代に国ごとに置かれた役職と、荘園や公領ごとに置かれた役職の説明として正しい組み合わせを選びなさい。 (2026年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------|------------------------------|--|-----------------------------|
| 1. 守護は京都の警備を行い、地頭は外交交渉を担当した。 | 2. 守護は年貢の徴収を行い、地頭は天皇の護衛を行った。 | 3. 守護は警察や軍事の仕事をを行い、地頭は年貢の徴収や土地の管理を行った。 | 4. 守護は裁判のみを行い、地頭は軍事全般を指揮した。 |
|------------------------------|------------------------------|--|-----------------------------|
- 問2 北条泰時が、武士の社会における慣習や道徳を整理して「御成敗式目」を制定した最大の目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 1. 天皇や貴族の生活を厳しく制限し、幕府が朝廷を完全に支配するため | 2. 将軍の跡継ぎ問題を解決するために、北条氏の権力を強化するため | 3. 武士同士の領地争いなどに対して、公平な裁判の基準を示すため | 4. 農民に対して土地の売買を禁止し、年貢を確実に納めさせるため |
|------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
- 問3 鎌倉幕府の「御恩」と「奉公」という仕組みにおいて、その関係性の特徴を正しく説明しているものはどれですか。 (2023年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 将軍が御家人の領地を保証する代わりに、御家人が軍役などの義務を果たすという、土地を仲立ちとした双方向の関係。 | 2. 御家人が自らの意志で土地を将軍に献上し、その代償として将軍が御家人を官位に任命するという、名誉に基づいた関係。 | 3. 将軍がすべての土地を直轄地とし、御家人がそこから得られる年貢を徴収して将軍に納めるという、一方的な従属関係。 | 4. 朝廷が認めた貴族の領地を将軍が奪い、その土地を御家人に平等に分配して耕作させるという、共同体的な関係。 |
|---|--|---|--|
- 問4 平氏を滅ぼした後の源義経の生涯について、その背景と経緯を説明した文として正しいものはどれですか。 (2018年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 平氏を滅ぼした功績が認められ、近畿地方を治める初代の執権として幕府の政治を主導した。 | 2. 武士の時代の到来を予見し、山口県の下関付近に独自の独立政権を樹立して平氏の遺志を継いだ。 | 3. 戦後に後白河法皇と協力して、鎌倉に代わる新しい幕府を近畿地方に樹立した。 | 4. 兄の源頼朝と対立し、東北地方の奥州藤原氏のもとへ逃れたが、最終的に自害に追い込まれた。 |
|---|---|---|--|
- 問5 源頼朝が朝廷から設置の許可（勅許）を得て、全国の荘園や公領ごとに配置した役職を何といいますか。この役職は、土地の管理や年貢の徴収、現地の治安維持を主な任務としていました。 (2025年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 執権 | 2. 守護 | 3. 地頭 | 4. 管領 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問6 源頼朝が、対立した実の弟を捕らえることを名目として、国ごとに守護、荘園や公領ごとに地頭を設置することを朝廷に認めさせた際、その捕縛の対象となった人物と、軍事や御家人の統制を担うために設置された組織の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|------------|
| 1. 源義経と政所 | 2. 源義仲と侍所 | 3. 源義経と侍所 | 4. 源義仲と問注所 |
|-----------|-----------|-----------|------------|
- 問7 日本の平清盛が活躍した12世紀後半から、鎌倉幕府が成立した後の13世紀初頭にかけての世界情勢について述べた文として、正しいものはどれか。 (2016年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. マゼランの船団が世界周航に出発し、ヨーロッパ諸国による新航路の開拓が活発に行われた。 | 2. チンギス＝ハンによってモンゴルの諸部族が統一され、ユーラシア大陸にまたがる広大な帝国の形成が始まった。 | 3. 朝鮮半島において、新羅が唐と結んで百済や高句麗を滅ぼし、半島の統一を達成した。 | 4. ムハンマドがイスラム教を創始し、アラビア半島の諸部族を統合して宗教国家を築いた。 |
|---|--|--|---|
- 問8 鎌倉幕府において、源氏の将軍が途絶えた後に北条氏が「執権」という役職に就き、有力な御家人を統率して幕府の実権を握った政治形態を何といいますか。 (2026年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|---------|---------|-------|
| 1. 親政 | 2. 執権政治 | 3. 摂関政治 | 4. 院政 |
|-------|---------|---------|-------|
- 問9 鎌倉時代に普及した「禅宗」の特色について、それ以前に広まっていた「浄土教」の考え方と比較した説明として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 福井県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 念仏を唱えることよりも、経典を書き写す写経によって功德を積むことを重視した。 | 2. 極楽浄土への往生を願うのではなく、現世での利益を得るための祈禱を主な修行とした。 | 3. 阿彌陀如来の救いにすがるのでなく、厳しい修行を通じて自らの力で悟りを開こうとした。 | 4. 特定の仏を信仰の対象とせず、日本古来の神々を鎮めるための儀式を重んじた。 |
|---|---|--|---|
- 問10 1221年の承久の乱の際、北条政子は御家人たちを前に、初代将軍である源頼朝以来の恩義が「山よりも高く、海よりも深い」と訴え、幕府への忠誠を呼びかけました。この演説において、将軍が御家人の領地を保証するといった恩恵を指して使われた概念はどれですか。 (2023年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 徳政 | 2. 封建 | 3. 御恩 | 4. 奉公 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問11 鎌倉時代後半、元寇の防衛に功績のあった御家人が生活に困窮し、幕府への不満を強めた経緯を説明した記述として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|-------------------------------------|--|---|
| 1. 御成敗式目によって土地の相続が厳しく制限され、家を維持することが困難になった。 | 2. 元の軍隊が九州の大部分を占領し、御家人の所領が直接的に奪われた。 | 3. 幕府が全国の武士に土地を寄進するよう命じたため、自立した経営ができなくなった。 | 4. 自費で軍役を果たしたが、恩賞としての領地が与えられなかったため、幕府との主従関係が揺らいだ。 |
|--|-------------------------------------|--|---|
- 問12 鎌倉時代の武士の生活を描いた「男衾三郎絵詞」などの資料には、武士が館の周辺で田畑を耕作させ、弓馬などの武芸の訓練に日常的に励む姿が記されています。こうした武士たちを国ごとに統括し、治安維持や軍事的な任務にあたらせるために源頼朝が設置した役職とその役割の組み合わせとして、正しいものを選んでください。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 侍所が、御家人たちの日常的な農業経営を直接指導した。 | 2. 六波羅探題が、承久の乱の後に京都の警備や朝廷の監視を行った。 | 3. 守護が、国ごとに置かれて軍事・警察の職務を執り行った。 | 4. 地頭が、国ごとに置かれて年貢の取り立てや土地の管理を行った。 |
|-------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|
- 問13 鎌倉時代、北条氏が「執権」という立場から政治を主導した時期の背景や仕組みについて述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 室町幕府との違いを明確にするため、執権は武士の裁判だけでなく、寺社の管理や天皇の即位にも関与した。 | 2. 源氏の将軍が絶えた後も、北条氏は自ら将軍にはならず、将軍を補佐する立場のまま実権を握り続けた。 | 3. 北条氏は朝廷から直接任命されることで、将軍に代わって全国の守護や地頭を指揮する権限を得た。 | 4. 有力な御家人の不満を抑えるため、北条氏は執権の職を北条氏以外の御家人と交代で務める仕組みを作った。 |
|--|--|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 守護は警察や軍事の仕事を行い、地頭は年貢の徴収や土地の管理を行った。	鎌倉時代において、国ごとに置かれた守護は謀反人や殺人犯の取り締まりなどの警察・軍事の職務を担当しました。一方、荘園や公領ごとに置かれた地頭は、現地で年貢の徴収や土地の管理を担当しました。
問2	答え 3 武士同士の領地争いなどに対して、公平な裁判の基準を示すため	鎌倉幕府の支配力が全国に広がるにつれ、武士の間で土地をめぐる複雑な争いが増加しました。北条泰時は、武士社会の「ならわし」に基づいた明確なルールを文書化することで、身分の上下に関係なく、納得感のある公平な裁判が行えるようにすることを目指しました。この法律は、のちの室町幕府や戦国大名が定めた分国法にも大きな影響を与えました。
問3	答え 1 将軍が御家人の領地を保証する代わりに、御家人が軍役などの義務を果たすという、土地を仲立ちとした双方向の関係。	鎌倉時代の主従関係は、単なる精神的な忠誠心だけでなく、「土地」という具体的な利益を介した契約的な性格を持っていました。将軍が御家人の領地（私有地）の所有権を公的に認める「御恩」があるからこそ、御家人は命をかけて戦う「奉公」を行うという、互恵的な仕組みが成立していました。これを封建制度と呼びます。
問4	答え 4 兄の源頼朝と対立し、東北地方の奥州藤原氏のもとへ逃れたが、最終的に自害に追い込まれた。	壇ノ浦の戦いで平氏を滅ぼした源義経でしたが、兄である源頼朝の許可なく朝廷から官位を受けたことなどから頼朝の怒りを買い、兄弟の関係は悪化しました。頼朝から追われる身となった義経は、かつて少年時代を過ごした東北地方（平泉）の奥州藤原氏を頼りました。しかし、頼朝の圧力を受けた藤原泰衡に攻められ、非業の死を遂げることとなりました。
問5	答え 3 地頭	源頼朝が1185年に、朝廷から任命の権利を認めさせて設置した職名です。それまで貴族や寺社が実質的に支配していた荘園や、国が管理していた公領に武士を送り込むことで、幕府が全国の土地と年貢の流れを掌握する重要な足がかりとなりました。
問6	答え 3 源義経と侍所	源頼朝は、平氏を滅ぼした後に自分と対立した弟の源義経を捕らえるという口実で、1185年に守護・地頭を設置する権利を朝廷に認めさせました。これにより、幕府の支配力が全国に及ぶことになりました。また、鎌倉には軍事や御家人の統制を司る「侍所」のほか、一般政務を扱う「政所（当初は公文所）」、訴訟や裁判を扱う「問注所」が設置され、幕府の統治機構が整えられました。
問7	答え 2 チンギス＝ハンによってモンゴルの諸部族が統一され、ユーラシア大陸にまたがる広大な帝国の形成が始まった。	チンギス＝ハンによるモンゴル諸部族の統一は13世紀初頭の出来事であり、これは日本の平安時代末期から鎌倉時代初期の時期と重なります。マゼランの世界周航は16世紀、ムハンマドによるイスラム教の成立や新羅による朝鮮半島の統一は7世紀の出来事であるため、時期が異なります。
問8	答え 2 執権政治	鎌倉幕府を創設した源頼朝の死後、その妻である北条政子の実家である北条氏が、将軍を補佐する役職である「執権」の地位を世襲しました。これにより、形骸化した将軍に代わって北条氏が政治の決定権を持つ仕組みが確立されました。平安時代に藤原氏が天皇を補佐した摂関政治や、上皇が政治を行った院政とは、主導権を握る階層や組織が異なります。
問9	答え 3 阿弥陀如来の救いにすがるのはではなく、厳しい修行を通じて自らの力で悟りを開こうとした。	浄土教が阿弥陀如来という他者の力に頼る「他力」の教えであるのに対し、禅宗は座禅などの修行によって自分自身の力で悟りを得ようとする「自力」の教えであることが大きな違いです。この精神的な厳しさが、命がけで戦う当時の武士たちの支持を集める要因となりました。
問10	答え 3 御恩	北条政子の演説は、後鳥羽上皇による幕府打倒の動きに対し、御家人たちの動揺を鎮めるために行われました。彼女は、将軍から領地を保証されたり与えられたりした「御恩」の重さを強調することで、御家人たちに幕府のために戦う「奉公」を促しました。この演説は御家人の心を捉え、幕府軍の勝利と鎌倉幕府の支配権拡大につながりました。
問11	答え 4 自費で軍役を果たしたが、恩賞としての領地が与えられなかったため、幕府との主従関係が揺らいだ。	鎌倉幕府の基盤は、将軍が御家人の所領を保証する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」という主従関係にありました。しかし、元寇においては御家人が重い負担を負って奉公したにもかかわらず、幕府が十分な「御恩（恩賞）」を与えることができなかったため、この互恵的な関係が崩壊しました。これが御家人の幕府離れを招き、幕府滅亡への遠因となりました。
問12	答え 3 守護が、国ごとに置かれて軍事・警察の職務を執り行った。	源頼朝は、各地で自立的な生活を送る武士（御家人）を統制し、国家の治安を維持するため、各国に守護を配置しました。守護の主な任務は「大犯三箇条（だいぼんさんかじょう）」と呼ばれる軍事・警察的な権限であり、これによって幕府は全国的な軍事警察権を握ることになりました。一方で、土地の管理や年貢の徴収を主な職務としたのは、荘園などに置かれた地頭です。
問13	答え 2 源氏の将軍が絶えた後も、北条氏は自ら将軍にはならず、将軍を補佐する立場のまま実権を握り続けた。	北条氏は源氏の正統な血筋が途絶えた後、皇族や摂関家から形式的な将軍（宮将軍・摂家将軍）を迎え入れ、自らはあくまで「執権」としてその補佐を行う形式をとることで、幕府内での実質的な支配権を確立しました。この体制を執権政治と呼びます。北条氏は御家人の筆頭という立場を維持しつつ、一族で重要ポストを占めることで独裁的な権力を強めていきました。